

TruPhase の活用(25) —音源の位相確認(25)—

1. はじめに

前報(24)までに TruPhase の位相反転機能を活用して CD の位相確認を行ってきましたが、これまでの総括を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による CD 音源の位相確認経過

音源の位相確認は[音源の位相チェック実験シリーズ](#)で Brooklyn DAC+の位相反転機能を活用し、各種音源について実施してきました。そしてその中には CD の位相確認も含まれています。

[前報\(1\)](#)より、バランス入力のある、しなの音蔵 300B シングルアンプの修理が終わったことから、TruPhase の位相反転機能を活用して Brooklyn DAC+から TruPhase へのバランス入力と TruPhase から 300B シングルアンプへのバランス出力における音源の位相確認を行うこととしました。

CD の再生と以降の再生経路は次のとおりです。

[前報\(1\)](#)では、下記経路による CD 音源の位相確認を行いました。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

[前報\(3\)](#)では、次の経路で CD 音源の位相確認を行いました。

SA11-S2(GPS-777 よりクロック入力)→CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

[前報\(4\)](#)では、次の経路で CD 音源の位相確認を行います。

47 研 4716→ CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

前報(24)までの位相の確認結果を [Digital 音源特性表 2](#) に整理しました。

これらの結果を要約しますと、次のとおりとなります。

まず、Brooklyn DAC+の位相反転機能と TruPhase の位相反転機能を活用した CD 音源の位相の確認結果は整合しました。

上記 2 項に述べた CD の再生と以降の再生経路を替えての CD の再生の結果は同じ結果でした。

Brooklyn DAC+の位相反転機能を利用した音源の位相チェック実験シリーズでの結

果は、**TruPhase** の位相反転機能を利用した本シリーズの結果と一致しましたが、一部音源の位相チェック実験シリーズでの結果に判定ミスがあったことも明らかになりました。

アナログ盤と同じマスターからリマスターした CD は、位相の判定が一致しました。

古いアナログマスターからの CD は、**PHILIPS** など一部を除き逆相のものが多いことが分りました。これに対し、比較的新しいデジタルマスターからの CD は、概ね正相であると考えて良さそうです。

今回、**Brooklyn DAC+**から **TruPhase** へのバランス入力と **TruPhase** から **300B** シングルアンプへのバランス出力にしたことと、ヴォリュームアキュライザー、**USB** ダンパー、**Magnetic Wave Guide** などの導入により、分解能が向上したことにより判定が容易になりました。

4. まとめ

TruPhase での位相反転機能を利用した CD の位相の確認が可能であり、レーベルや録音年代による位相の変遷が明らかになりました。

以上